

M3T-CC32R ご使用上のお願い

M32Rファミリ用クロスツールキットM3T-CC32Rの使用上の注意事項を連絡します。

- 先頭に4バイトのメンバを持つ構造体をコピーするプログラムに関する注意事項

1. 該当製品

M3T-CC32R V.1.00 Release 1 ~ V.4.10 Release 1

2. 内容

4バイト(long型やポインタ型など)のメンバを先頭に持つ構造体を代入演算子(=)でコピーする記述を含むプログラムを、レベル1の最適化が有効となるオプションを指定してコンパイルすると、コピー先の構造体に間違っただータを書き込むコードを生成します。

2.1 発生条件

以下7点の条件を全て満たす場合に発生します。

- (1) コンパイル時に -Ospaceの指定がなく、かつ -O1の最適化と同じ内容を含む最適化オプションを指定している。(-O1, -O3, -O5, -O7いずれかの指定が有効になっているか、-Otimeを単独で指定している。)
- (2) メンバを2つ以上持つ構造体型を宣言している。
- (3) (2)の構造体型の先頭に、volatile修飾がなくかつ、4バイトの整数型またはポインタ型のメンバがある。
- (4) volatile修飾がなく、かつ型が(2)である構造体を定義している。
- (5) (4)の構造体の(3)に該当するメンバに値を代入している。
- (6) (5)の代入の後に、(4)の構造体メンバの値を代入演算子(=)を用いて同じ型の別の構造体にコピーしている。
- (7) (5)の代入と(6)の構造体コピーの間に、次のいずれの処理も存在しない。

- (a) 関数呼び出し
- (b) (4)の構造体の中の、(3)に該当しないメンバへの書き込み
- (c) メモリに割りつけられた領域への値の書き込み

2.2 発生例

[ソースファイル例1]

[sample1.c]

```
-----  
struct S1 {          /* 条件(2) */  
    char *ptr;       /* 条件(3) */  
    char chr;  
};  
  
struct S1 src1;      /* 条件(4) */  
struct S1 dst1;  
  
void func1(char *str)  
{  
    src1.chr = 'a';  
    src1.ptr = str;  /* 条件(5) */  
                  /* 条件(7) */  
    dst1 = src1;    /* 条件(6) */  
}
```

[ソースファイル例2]

[sample2.c]

```
-----  
typedef struct {     /* 条件(2) */  
    unsigned long a; /* 条件(3) */  
    unsigned short b;  
    unsigned char c;  
} S2;  
  
S2 dst2;  
  
void func2(S2 *psrc2) /* 条件(4) */  
{  
    psrc2->a = 0;     /* 条件(5) */  
                  /* 条件(7) */  
    dst2 = *psrc2;  /* 条件(6) */  
}
```

[オプション指定例]

```
% cc32R -c -Otime -O7 sample1.c /* 条件(1) */  
% cc32R -c -Otime -O7 sample2.c /* 条件(1) */
```

(% は プロンプトを表します)

3. 回避策

次の4点のいずれかの方法で回避してください。

(1) コピー元の構造体をvolatile修飾する。

[ソースファイル例1の変更例]

[sample1.c]

```
struct S1 {  
    char *ptr;  
    char chr;  
};
```

```
volatile struct S1 src1; /* コピー元をvolatile修飾 */  
struct S1 dst1;
```

```
void func1(char *str)  
{  
    src1.chr = 'a';  
    src1.ptr = str;  
  
    dst1 = src1;  
}
```

[ソースファイル例2の変更例]

[sample2.c]

```
typedef struct {  
    unsigned long a;  
    unsigned short b;  
    unsigned char c;  
} S2;
```

```
S2 dst2;
```

```
void func2(S2 *psrc2)
{
    psrc2->a = 0;

    {
        volatile S2 *p2 = (volatile S2 *) psrc2;
        dst2 = *p2; /* volatile修飾した構造体ポインタを用いる */
    }
}
```

- (2) 4バイトの先頭メンバへの代入と構造体のコピーの間に、他のメモリ領域に割りつけられる変数への代入を記述する。

[ソースファイル例1の変更例]

[sample1.c]

```
struct S1 {
    char *ptr;
    char chr;
};

struct S1 src1;
struct S1 dst1;

void func1(char *str)
{
    src1.ptr = str;
    src1.chr = 'a'; /* メンバchrへの代入をptrよりも後に行う。
                   chrは条件(3)に該当しないため、
                   条件(7)(b)が回避できる */
    dst1 = src1;
}
```

[ソースファイル例2の変更例]

[sample2.c]

```
typedef struct {
    char a;
    unsigned long b;
```

```
    unsigned short c;
} S2;

S2 dst2;
int dummy;      /* メモリに割りつけられるダミー変数を定義 */

void func1(S2 *psrc2)
{
    psrc2->b = 0;
    dummy = 0;   /* ダミー変数への書き込み、条件(7)(c)を回避 */
    dst2 = *psrc2;
}
-----
```

- (3) -Ospace(サイズ重視最適化)オプションを指定する。
(この場合、-Otimeオプションは同時に指定できません。)
- (4) -O1, -O3, -O5 および -O7の最適化オプションを指定しない。
-Otimeを使用する場合は、同時に -O0,-O2,-O4,-O6のいずれかの指定が必要。

4. 恒久対策

本問題は、次期バージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。